

## 3-2 避難所運営委員会との連携

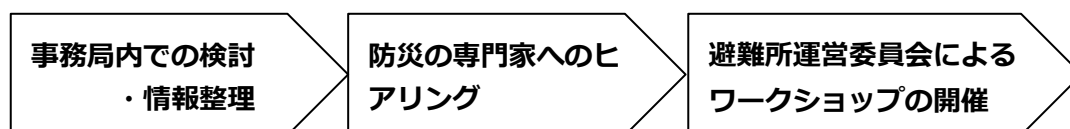
### 1. 昨年度までの課題の整理

- ・課題 1：避難所運営委員会内で設備の利活用方法の共有に難あり
  - ⇒各委員に対して、わかりやすい資料の作成と説明（実際の現場での説明なども必要）
  - ⇒誰もが分かりやすい成果目標を提示し、検討いただく
  - ⇒想定される災害の規模別の運用マニュアルの検討
    - ①避難所いっぱいになる規模
    - ②半分くらい埋まる規模
    - ③少人数の集合にとどまる規模
- ・課題 2：避難所によって活動、意識等に差がある
  - ⇒磯辺小学校の防災活動<sup>\*</sup>など先行している事例を積極的に先例として紹介し、生かす。
  - ※磯辺小学校の事例(参考参照ください)

### 2. 連携方法

#### (1) 検討の流れ

達成すべき目標、避難所運営委員会ごとに運営スタイルなどについて、以下の流れで検討を進める。



#### (2) 作業内容

##### 1) 避難所運営委員会ごとに運営スタイルを確定させるための方向性

- ・情報収集内容
  - ①現状の組織（連絡体制、参加者数、参加メンバー、議事録の有無など）
  - ②立地条件、防災に関する意識・活動状況
  - ③避難場所の電気使用量
  - ④学校との連携状況（環境教育に利用できるか） など
- ・情報の収集方法
  - 事務局の事前情報整理の上で、各避難所運営委員会委員長等へヒアリングを行う。
- ・情報の整理
  - 各委員長へのヒアリング結果を基に、避難所運営委員会ごとの運営スタイルの方向性を事務局案としてまとめる。なお、ワークショップ開催における課題等について、防災の専門家に対してもヒアリングを行う。

## 2) 住民を巻き込んだワークショップ開催

### ア) ワークショップの役割

- ① 具体的な避難訓練方法の検討に生かすためのワークショップとする  
ファシリテーターとして、過去の訓練実施者、一般的な災害 NPO 等の専門家を講師に招くことも検討する。
- ② 先行している避難所運営委員会情報の活用  
磯辺小学校等先行している避難所運営委員会に対して、まずワークショップを実施して、他の避難所運営委員会の参考となる防災訓練における問題や課題を整理する。(2 か所程度)
- ③ 避難所運営委員会の活動が活発でない避難所運営委員会情報の活用  
現時点で発足していない、または活動が活発でない避難所運営委員会に対して、ワークショップを実施して、避難訓練等への課題を把握し、他の避難所運営委員会のワークショップの参考とする。(2 か所程度)

### イ) ワークショップ開催前の準備

ワークショップ開催に向け、これまで設備設置の説明会を実施していない避難所運営委員会に対して、ワークショップ開催事前説明会を 14 か所で開催し、趣旨を説明する。

### ウ) ワークショップ開催回数

3 回の開催を予定する

- 第 1 回目：趣旨説明・課題抽出
- 第 2 回目：訓練をはじめとするマニュアルの作成
- 第 3 回目：訓練後のマニュアルの改定

### エ) ワークショップ開催時期

- ① 先行避難所、活動が活発でない避難所  
今年度中に第 1 回目を予定  
(開催避難所、実施時期は避難所と協議のうえ決定する)
- ② その他の避難所  
第 1 回目を平成 28 年度初めに開催予定

### オ) 具体的な検討内容

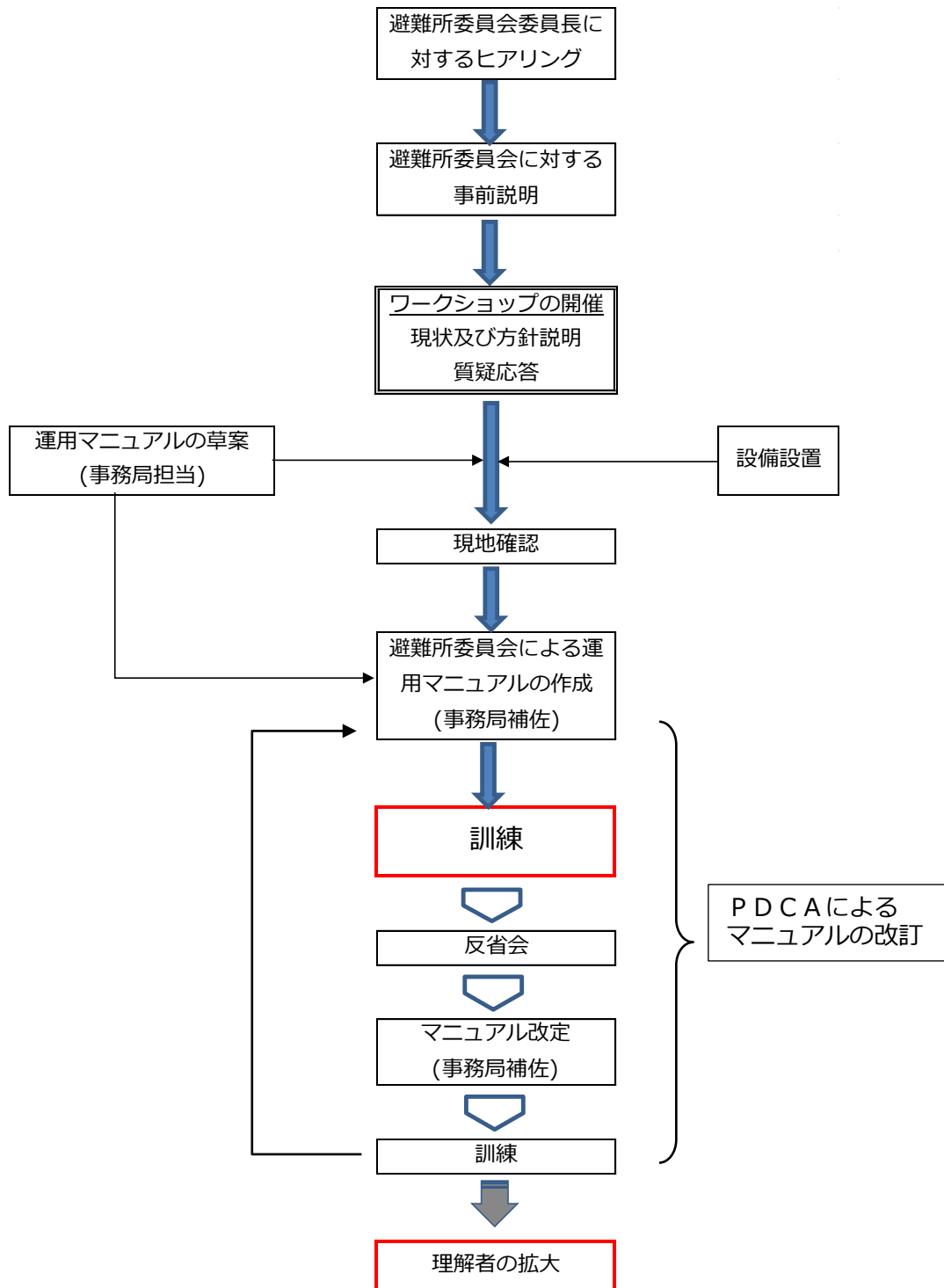
- ① 夜間訓練実施方法
  - ・ 訓練までに何が必要か
  - ・ 訓練にはどんなことが必要か
  - ・ その訓練の活用方法を見直し、マニュアルに落とし込む
  - ・ 再訓練で注意すべき点
- ② マニュアルの内容

## (3) とりまとめ

避難所運営委員会ごとのワークショップ結果を取りまとめ、各避難所運営委員会へ情報配信するとともに、事業成果の取りまとめに盛り込む。

# 参考

## ■ 検討の流れ



## ■ 留意事項等

各避難所運営委員会の既存のルールに則った周知等を行う。なお、各避難所運営委員会の実情に応じた運用マニュアルの作成を基本とする。

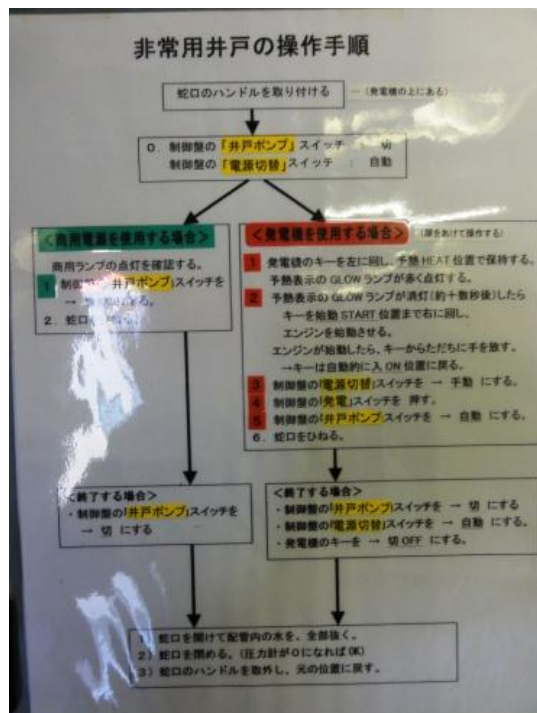
ただし、千葉市の基本ラインは外さないこと。

- (基本ライン) ・各避難所での対応に大きな差がないこと
- ・市民主導の運営を目指すこと

■ 磯辺小学校の防災対策事例



非常用井戸ポンプ制御盤



非常用井戸操作手順書

## ■ワークショップの進め方

### «ワークショップとは»

「ワークショップ(workshop)」という英語のもともとの意味は、「工房」「作業場」など、共同で何かを作る場所を意味しています。

イメージとしては、

- ・参加者が共通の目的のために共同作業を行う場
- ・対等に自由に意見を出し合い作り上げて行く場

です。

**一人一人が主役になる（参加する＝責任を担う）ことを目指すのがワークショップ。**

### 【特徴】

- ・立場や専門性を超えて、全員が公平に意見を言う。
- ・意見を書き出して、共有する
- ・意見の相互作用により、考えをまとめてゆく
- ・発表する（意思表示をし、行動する）

### 《ワークショップのルール》

ワークショップを楽しく、実りのあるものとするため、以下のルールを定めます。

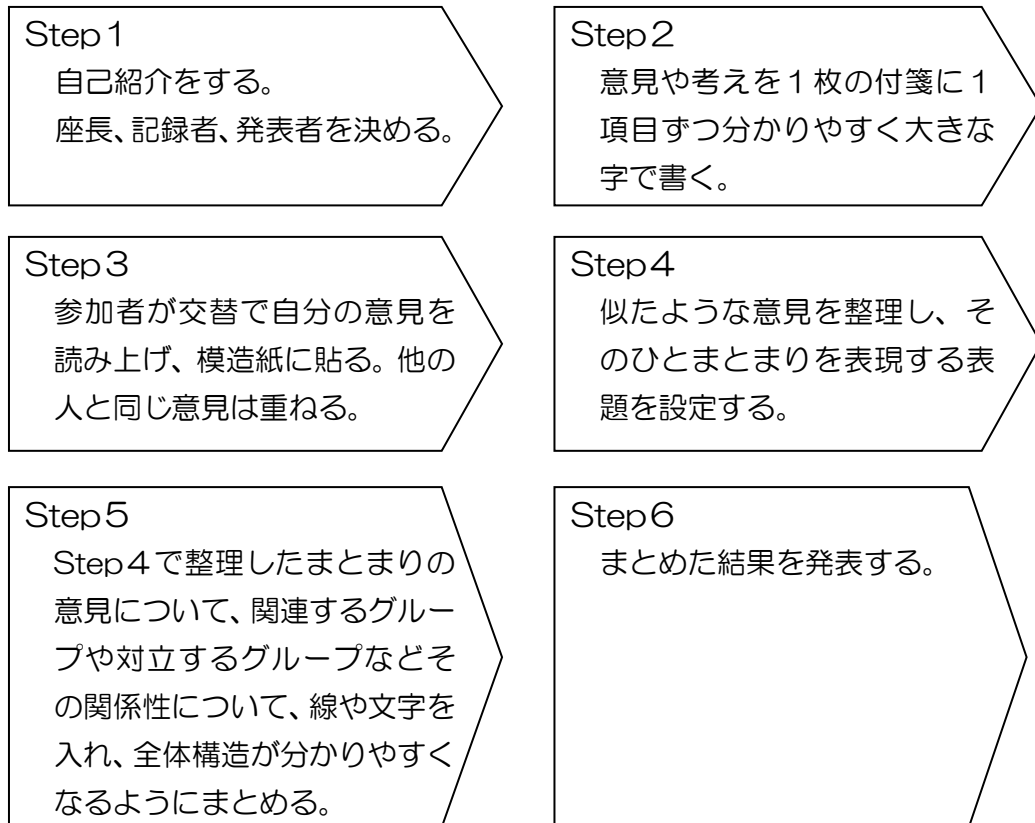
- ① 自由に発想し、自由に発言できます。また、全員が発言しましょう。
- ② 他の人の意見やアイデアを否定したり、非難したりするような発言は控え、自分と異なった考え方や視点も大切にしましょう。
- ③ メンバーの意見は最後まで聞きましょう(遮らない)。
- ④ 発言にあたっては、難しい言葉や専門用語の使用は避けましょう。
- ⑤ 個人攻撃の発言は避けましょう（意見の良し悪しは関係ありません）。
- ⑥ 発言は、皆が発言できる時間が取れるように、簡潔にしましょう。
- ⑦ とっぴな考え、相乗り、連想など、関連する言葉をどんどん追加していきましょう。
- ⑧ メンバー合意のもとに結論をだしましょう。

### «結果の取りまとめ»

KJ法により取りまとめられた意見から、避難所運営委員会の方針、方向性、方法等を整理する。

## KJ法とは

今回のワークショップでは、KJ法という手法を参考にします。KJ法は、各自の頭の中にあるぼんやりとした意見・アイデアをグループ化し、論理的に整理する手法です。KJ法の主な流れは以下のとおりです。



### 付箋に書き、模造紙に整理することの意味

- ◎すぐに発言するのではなく付箋に書き出すことで、自分の考えを整理できる。
- ◎発言が得意な人、不得意な人に関係なく、意見や考えを提示することができる。
- ◎話し合った内容を、視覚的に分かりやすく記録することができる。
- ◎発言者の影響を受けずに、意見を意見として切り離して整理することができる。